



今回は、未来創造週間II(先輩を囲む会)について報告します。

「同窓の先輩から研究や職業、学生時代の思い出等、様々な話を伺い、自身の将来や生き方について考える機会」にするために、お忙しい中、多くの先輩が関高に来てくださいました。現場の生の声を聞くことができ、生徒たちは興味津々、熱心に聴き入っていました。

◇ 各講師の講義内容と生徒の感想

1 新谷 紀人氏 (大阪大学 准教授)

■ 講義の内容

1. 現職に至るまでの過程について
 - ・ 関高校での思い出・勉強について
 - ・ 大阪大学での思い出・研究に目覚めたきっかけ
 - ・ 大阪大学で助手として採用されたきっかけ
 - ・ イタリアで行った研究について

2. 日本とイタリアの文化の違いについて

日本は仕事を大事にするが、イタリアでは家族など愛

する人を大事にする。また、日本は1つの仕事にしがみつくと、海外ではその国で仕事がない場合は他国で仕事を見つければよいというグローバルな視点がある。

3. 薬学における研究について

○創薬に応用できる「生命現象・病態メカニズム」の発見

⇒患者の遺伝子解析+遺伝子改変動物の作成を行う。

○研究例の紹介 P A C A P 遺伝子が無いマウスの研究。

4. 研究を行う上で重要な力 ⇒積極的な社会貢献 (P D C A) ができる人材になるために

1. 問題発見力 2. 問題解決力 (想像力・展開力) 3. 論理構成力・発信力

5. 薬学部・薬剤師について

薬剤師は第5世代に入り、薬を処方するだけではなく、カウンセリングやモニタリングやコンサルテーションまで行うようになる。

■ 生徒の感想

- ・ 僕が将来やりたい学問は「薬学」ではないですが、研究の楽しさや研究する上で大切なことを学びました。特にP D C Aサイクルを確立していくことで研究以外の生活でもより良い生活をする事ができると思ったので、実行していきたいと感じた。
- ・ 薬学部と聞いたら創薬のイメージが強かったけど、毒性を調べるなど化粧品・食品関連の研究にもつながることを初めて知りました。受験前も大学進学後も高い意識を持った環境に身を置いて精進して行けたらいいを思いました。
- ・ 研究者は先の見えない状況が長く続くと思うが、その中で自分なりの楽しみ方を見つけ、没頭できるというのは素晴らしいし、同時に羨ましくもありました。漠然でもやりたいことがあるのは大切だと思いました。



■ 講師の先生から、関高生の印象

・まじめで、熱心でよかったです。時間带的に大変ですが、寝ている人も（大学と比べて）少なかった。良い質問もあり、びっくりした（大学だとあまりないので）。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

薬学は常に発展しています。私もよりよい社会・大学に変えて行きたいと思います。一緒に変えていきましょう。

② 北村 隆幸氏（ぶうめらん代表理事）

■ 講義の内容

○自信の活動内容についての紹介

まちづくりのNPO団体を立ち上げ、行政や商店街等と共同事業などを実施している。市民参加型のフリーマガジン「ぶうめらん」の発行や、コミュニティブックカフェ「ブックエカ」も開店した。

○関市のまちづくりについて

地方へ出る高校生が将来、関市に戻ってきたくなくなるようなまちづくりを考え、フリーマガジンも高校生向けのものを作成。他にも、関市を読書の町にしたい想いも話されました。

○生徒参加型のワークショップ

グループを作ったのワークショップ「ワールドカフェ」を実施した。実際にぶうめらんの活動の中でも行っているもので、今回生徒も実際に体験させていただいた。各グループでテーマに従っておののが自由に意見を出し合い、一つの提案をするというものだった。生徒たちは積極的に意見を出し合い、非常に有意義で貴重な経験となった。

生徒の興味関心を抱きやすいように、分かりやすいプレゼンテーションをしていただきました。また、時間が足りなくなるほど、充実した活動をさせていただき、受講した生徒には大きな収穫ができた講演でした。

■ 生徒の感想

- ・まちづくりについて知る機会になりました。
- ・グループディスカッションする楽しさを感じました。
- ・地元の人が地元の為に頑張り、それを仕事にすることがとても素敵なことだと思いました。
- ・関市の人間ではないけど、自分の町のいい所や誇れる所を見つけていきたいと思いました。
- ・特定の層の人に対してどうしたら興味を持ってもらえるのかを考えることが楽しかったです。
- ・フリーマガジンがどのような目的で配布されているのか知れて良かったです。
- ・今日の会で、将来、関市のために何かできればいいなと思いました。
- ・みんなで考えを出し合うことがとても楽しかったです。えんたくん欲しいです。

■ 講師の先生から、関高生の印象

ととても楽しそうに、積極的にワークショップに参加してくれました。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

「まちづくり」という仕事があることを知ってね。



3 早川 典雄氏（株式会社セイノー情報サービス、取締役）

■ 講義の内容

ご自身の関高校時代の思い出を織り交ぜながら、会社の紹介、物流の仕組みやIT（情報技術）で何ができるか、そして最後には後輩たちへの熱い想いを語っていただきました。

社会を動かす原動力の1つである「情報」や「時間」は、使い方を工夫すれば無限になると言える。そのような工夫によって生まれた例として、ネットスーパービジネスというものがある。実際に店舗に足を運ばなくてもインターネットを利用することで欲しい物が自宅まで届く。そのようなシステムの構築に早川さんは携わっていらっしゃる。

最後には3つのメッセージを贈っていただきました。「1,000時間の壁を越えよ」とは、年間1,000時間、1日にすると2・7時間勉強すれば進路実現はできるというメッセージでした。「π

（パイ）字型人間のすすめ」とは、広く知識を身に付ける中で、相反する2つの専門性をもてというメッセージでした。「やるべきことをやる」とは、樂をしてやりたいこと、やれることのみをやるのではなく、たとえ苦しくても自分がやるべきことをやれというメッセージでした。どれも高校生の胸に響くものでした。



■ 生徒の感想

- ・最初は「物流」と「IT」のつながりがよくわからなかったけれど、この話を聞いて、より良い物を届けたり効率の良さを「IT」を通じて考えることで、より良い生活が送れるのだなと思いました。
- ・ネットスーパービジネスは、スマホやパソコンが一般化した現代だからこそのお客様へのサービスがあって、とても興味がもてました。

■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・皆さん真面目ですね。説明した労働力不足についての質問があったのでホッとしました。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

目標とのGAPをイメージしてその自覚がいかにできるか、先生のカも貸りながら、それに到達する取り組みに期待します。

4 中村 亜美氏（看護師）

■ 講義の内容

現在、看護師三年目。一年目は何もできずに先輩に叱られ、辞めたいと思ったこともあった。しかし、患者さんの「ありがとう」「がんばってね」や同期の励ましがあって何とかやることができた。また、先輩は厳しかったが、いろいろ教えていただくことも多くあった。今は、逆に後輩たちに教えなければいけない立場となった。

勤務二年目に、入退院を繰り返した肺炎の患者さんがお亡くなりになった。ご遺族から手紙をいただき、そこには感謝の言葉が連ねてあった。少しでも役に立てたと感じた瞬間であった。



勤務院には、緩和ケアセンターがある。患者さんの想いを聞いたり寄り添ったりしながら対応している。看護師は、患者さんの様態が急変したときにこそ、冷静な判断や行動を要求されることになる。そのために、日ごろから院内での学習会や図書館で専門書を読んだりしながら、落ち着いて対応できるようにしている。

■ 生徒の感想

- ・今日の話聞いて、確かに大変な仕事だということは改めてわかったし、想像以上に大変そうでした。でも、それ以上にやりがいを感じるということもわかりました。これからの進路選択にとっても役立つようなことばかりが聞けて本当によかったです。
- ・人の役に立ちたいという気持ちは一緒で、そのためには勉強をがんばらないといけないし、つらいこともあると思うけど、生きがいを見つけたいし、自分の夢を叶えたいのでがんばろうと思いました。
- ・中村先生のお話を聞いて、大学の印象も良くなり、看護の苦しいところ、やりがいを感じる場所、「ありがとう」という言葉の大切さ、とてもたくさんを学ぶことができました。つらいこともあると思うけれど、それをのりこえて、中村先生のような患者さんのことをよく理解できる看護師になりたいです。

■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・緊張しすぎて聞きにくかったかもしれませんが、真剣に話を聞いてくれて、とても話しやすかったです。積極的に質問もしてくださって、ありがとうございます。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

勉強に部活、学校行事、いろいろな事に、一生懸命取り組んでください。今しかできないことを見つけて取り組んでみてください。今回の話が皆さんの進路選択の参与になれば嬉しいです。真剣に話を聞いてくれてありがとうございました。

5 尾藤 望 氏（弁護士）

■ 講義の内容

仕事の内容について説明される、というよりも、参加者から質問を引き出し、それに対して回答していく、というスタイルで講義を進められた。

最初は緊張気味であった生徒からも、「刑事裁判と民事裁判の境目はどこにあるのか」「刑事裁判の弁護を断ることはできるのか」「これまでで一番印象に残っている裁判は」といった質問が徐々に出され、講師の方のフレンドリーな語り口調もあって、温かい雰囲気での講義となった。



司法試験に合格することの大変さについても経験を交えてお話しいただいた他、講義の最後には、受験に向けての心構えといった、生徒へのメッセージも送っていただき、大変有意義な時間となった。

■ 生徒の感想

- ・今まで法律や司法のことに触れたことはなかったけれど、今回初めて関心を持つことができました。話を聞いていると、とても大変そうだったけど、大きなやりがいやプライドを持って仕事している感じが分かって尊敬しました。
- ・司法試験から、将来が色々な道に進めることが分かった。5～6年の頑張りで、人生一生分の仕事ができるのであれば、この道もありだな、と思った。
- ・かなり難しそう、という理由で、法学へ進むことを考えていなかったけれど、弁護士、検察官、裁判官以外の仕事があることを知って、再び興味を持ち始めました。
- ・弁護士の方には何回か話を聞いたことがあるが、毎回新鮮な驚きがある。仕事の内容や報酬、期間もさることながら、それ以上に人生の過程で紆余曲折を経て夢を掴んだことが聞けて良かった。
- ・司法試験の受け方や、どうやって合格して弁護士になったかなど、具体的に知ることができ、弁護士という職業に非常に興味がわいた。
- ・弁護士はとてもお金が儲かるものだと思っていたけれど、実はそうでもないことに驚いた。仕事内容はとてもおもしろそうで、やりがいのある仕事だと思いました。
- ・弁護士はなるのも大変だし、自分にはこんな高度な仕事をこなせるとは思いませんが、尾藤さんがおっしゃったとおり、なんとかかなと思って受験を頑張ります。

■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・真剣に話を聞いていました。積極性がもう少しあると良いなあとは思いました。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

今回の話を聞いて少しでも、今後の進路を考える参考になればと思います。これから受験を迎えると思いますが、気負い過ぎることなく、一步一步がんばってください。

6 佐藤 淳也氏（愛知県立御津高教諭）

■ 講義の内容

大学卒業後、民間企業に就職するも教育実習での思い出が忘れられず、厳しい仕事と教員採用試験の勉強との両立を果たし、高校教員に転職をされた佐藤先生。

今やるべきことを丁寧にやり遂げることが将来的にも大切で、やるからには責任をもって何がなんでもやり抜くこと、自分一人の力で出来ることは限られているので、助けてくれる周りの方々に感謝の気持ちを忘れないようにすることを力強く語られていたのがとても印象的でした。

質疑応答の時間を多くとり、ご自身の体験を交えながら、生徒達の様々な質問や悩みに答えて頂きました。



■ 生徒の感想

- ・これから受験勉強など色々大変なことが増えてくるけど、それでも自分の道信じて諦めないということがやはり大切だと思いました。
- ・部活動に所属していない自分にとって全力で取り組めるものは勉強なので、今は将来についてはっきりとした見通しはたっていないけれど、本気でやり続ければ道は開けると信じて勉強に打ち込もうと思った。
- ・一度、民間企業に就職されてから教員になられたということで、大変な努力があったのだと思います。最後までやり遂げることを大切にして、自分の決めた道を歩んでいきたいなと思いました。
- ・自分一人でものごとが決まるのではなくて、周りの人の言葉や影響で決まっていくこともあるのだと思った。
- ・部活と勉強の両立は本当に尊敬です。苦しくても夢から逃げない姿は素敵だと思いました。
- ・楽しかった！佐藤先生の世界史の授業を受けてみたい。
- ・様々な方面の事を体験したり、色々な人と関わることは大切だなと思いました。

■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・まじめに聞いており感心しました。悩んでいることを素直に質問するなどといった点にとっても好感を持ちました。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

いろいろ大変だと思いますが、強い意志を持ってやるべきことをやりましょう。きっと結果はついてきます。がんばってください。応援しています。

7 岸 利江子氏（筑波大学助教）

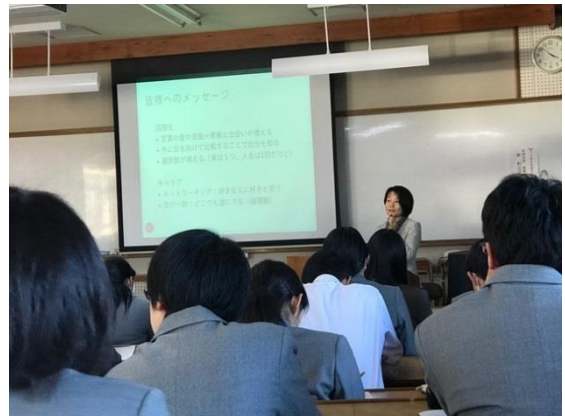
■ 講義の内容

・進路の決める高校2年生のころ、体と心と頭をバランスよく使う仕事に就きたいと考えていた。高校教員で進路指導を担当していた父の勧めもあり、看護の道に進む。広島大学で看護師・助産師・保健師の免許を取得し、女性の味方になりたい、との思いから現場の病院で働く。

・激増した看護大学の教員不足から、長野県立看護大学で教員を経験し、その後イリノイ大学へ6年間大学院留学する。初めの2年間は必至で英語を学ぶ毎日であった。

・帰国後、9年間離れた臨床現場に戻る。難産など不幸なケースもあるが、基本的にお産は「おめでとう」「ありがとう」の世界である。女性の力とは？母性とは？Life（生活・命・人生）とは？…深いテーマに日々向き合える仕事である。

以上のような講演の後、現場のケアの仕事、後輩の育成、国際的な研究のどれもやりがいがあると、今後の研究への意欲を語られました。生徒諸君へのメッセージとして、海外へ出ることによって、「先端の情報に直接触れられる」「身は一つ、人生は一回だが、選択肢が増える」「外に目を向けることで自分を知ることができる」という言葉を残してくださいました。



■ 生徒の感想

・とてもポジティブで素敵だと思った。話に聞き入ってしまって、楽しい1時間だった。自分も看護師を目指している。今回の話を聞いて、いろんなことから逃げずに向き合おうと思った。

・看護師や助産師という仕事がこんなにも国際的で魅力的な仕事だと初めて知った。今後、看護師はより必要とされ、医師ではできない仕事を担っていく重要な仕事だと思った。

・自分が進みたい道に進む、ということを実践されていて素晴らしいと思った。海外留学をしたいと思っていたが、英語やリスニングに不安があった。話をお聞きして、そんなに心配しなくてもよいとわかり、ますます留学に興味を持てた。

・心に迫る話だった。やりたい事を一つに絞る必要はなく、今までネガティブになりがちだったが、気持ちが楽になって、将来のために頑張ろうと思った。話を聞いてよかった。

・女性を助けたい、という思いを達成しつつ、ご自分自身も子どもを育てながら一生懸命仕事をされている姿を見て、女性だからといって遠慮する必要はないんだと思えて、自分も同じように将来がんばりたいと思った。

■ 講師の先生から、関高生の印象

・とても真剣に聞いてくださり、質問も良い質問ばかりでした。自信を持って進路選択を楽しんでくれますように、と心から思いました。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

50分という枠の中で、一方的に話すのが大半になってしまいましたが、本当は皆さんお一人お一人の思いをたくさん聞きたかったです。関高での学びを一生の糧として進んでください！

8 堀江 耕太氏（義肢装具士）

■ 講義の内容

高校時代、まだ何がやりたいかわからなかったため、アメリカに留学をした堀江先生。そこで、自分のやりたいことが、ものづくりと医療だと気づき、義肢装具士という職業しかないと決意し専門学校へ。卒業後、就職先の義肢装具士の仕事が自分には合わないため独立。一人一人オーダーメイドの義足を作るにつれて、世界発の技術をいくつも発見する。現在は、その特許技術を世界中に提供し、世界中の多くの義足が堀江先生の特許を使用している。



堀江先生は事前に生徒に将来の夢は？という質問を聞いていた。ほとんどの生徒は職業を書いたが、そうではない。人生は夢の設定が大事。自分がどう生きたいかを定めることが大切だということを教えてくれた。自分がやりたいことをするために、どの職につくのか。職に就くことがゴールではない。スタート地点である。このメッセージを聞いた生徒達は、将来の進路や、生き方に大きく影響を与えてくれた。

■ 生徒の感想

- ・今まで、勝手に自分の人生の幅を狭めていたのかもしれないと思った。将来の夢を問われたときにいつも何気なく答えていたものは、今考えると「本当にやりたいことなのか」という疑問がわく。もっと広い視野で周りの物事を考えたい
- ・自分の人生をより豊かに楽しいものにするためには、何でも挑戦することが大切だと分かりました。
- ・将来の夢と言われて、職業しか思い浮かばなかったけれど、ゴールはそこじゃないことに改めて気付かされました。自分のなりたい姿を想像して、そこをゴールとして、通過点である職業を選びたい。あきらめない心が大切だと分かった。
- ・具体的にどんな職に就きたいかではなく、なりたい人生のためにどうするのが重要だと教えられた。
- ・生き方は、やろうと思えば変えられることを知った。自分のやりたいことは一つ残らずやりたい。諦めるのはもったいない！！
- ・将来の夢＝職業！と思っていたけれど、夢は目標、叶えるもの、スタート地点なんだ、と聞き、驚いたと同時に、「私」のこれからにすごく影響を与えてくれました。

■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・おとなしい。前向きな生徒とそうでない生徒がはっきり分かれている。目標が定まっていない生徒が多い。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

自分をよく知ろう！

9 亀山 雅弘氏（中濃消防組合）

■ 講義の内容

阪神淡路大震災を京都で経験され、そのときのボランティア経験から消防官を目指された亀山先生。

消防官として『生きる』ことの大切さやリーダーとして動くことの重要性を語っていただきました。消防の仕事は、体力・精神力・教養等の総合力が求められるため、日々自分を高める努力をされている姿が生徒にとっていい刺激になったようでした。また、『働く』ということに関して「やっぱり仕事をするなら命を懸けられる熱い仕事」という言葉が亀山先生の熱意を表しており、生徒は消防に関するだけでなく、生き方に関する考えも学べたようでした。



■ 生徒の感想

- ・リーダーになることの大切さがよくわかりました。組織を動かすために、自分がまず意識をもって行動していきたいです。
- ・消防について、生きているからこそ苦しみや喜びがわかるから命の大切さや重みを感じられた。
- ・いいリーダーとなるために人が嫌がることでも率先してやりたいと思った。
- ・8割は準備、2割はその場の判断という言葉が一番印象に残りました。自分もこの言葉を心にとめてテストなどをやっていきたいです。
- ・消防のことだけでなく、人としての話がきけてよかったです。リーダーになって、人として成長したいと思いました。
- ・「改革をするリーダー」何事にもチャレンジしていくことを忘れず生活しようと思う。
- ・苦しいことも乗り越えれば次に来た時には苦しくなくなると聞いて、全力で取り組もうと思いました。
- ・「生きる」ということ、夢に向かう姿勢について深く考える機会をいただくことができました。
- ・責任が一番かかるリーダーになることはとても怖く、つらいのでさけることが多かったけど、それを乗り越えたことで見えてくることがあるなら、少しでもやれるといいなと思いました。

■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・非常に落ち着いていて、しっかりしていると感じました。こちらの話し方がまとまりない状況でも、しっかりと耳を傾けてくれる生徒が多く、将来有望だなと感じました。

■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

是非、良きリーダーとなり、自分も周りの人もより良い人生となるように頑張ってください。